

# わが国の精神疾患の最近の動向

## 特に松原病院の新規患者の動向

医療法人財団 松原愛育会 松原病院 院長 山口成良



ストレス社会と呼ばれる昨今、世相を受け、精神科病院にかかる患者層にも若干の変化が見られています。松原病院におけるその動向について、山口成良院長が分析しました。

わが国の精神疾患の最近の動向として、表1に示したごとへ、①統合失調症の軽症化、②気分障害の増加（自殺の増加）、③摂食障害の増加、④ストレス関連障害、身体表現性障害の増加がわれています。

表1 わが国の精神疾患の最近の動向

- 1) 統合失調症の軽症化
- 2) 気分障害の増加（自殺の増加）
  - a. うつ病性障害
  - b. 双極性障害
- 3) 摂食障害（神経性無食欲症、神経性大食症）の増加
- 4) ストレス関連障害、身体表現性障害の増加
  - ①ストレス関連障害
    - a. 急性ストレス障害
    - b. 外傷性ストレス障害（PTSD）
    - c. 適応障害
  - ②身体表現性障害

図1は、平成14年度の厚労省精神保健福祉課の全国患者調査より作成したので、外来では気分障害（30・5%）が最も多く、次いで統合失調

症（2・7%）、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害（22・0%）となっています。入院では統合失調症（58・9%）が最も多く、次いで血管性及び詳細不明の認知症（15・5%）、気分障害（7・7%）となっています。外来受療者で気分障害が一番多いのは図2でみられるごとく、わが国では平成10年（1998年）以降、年間自殺者数3万人を越え、その中にはうつ病患者さん多いといふことで、うつ病の早期発見、早期治療の国をあげてのキャンペーンから気分障害の外来受療者が増えたとも考えられます。

松原病院の平成17年3月1日から平成18年2月28日の1年間における外来の精神科（内科その他を除く）受診の新規患者（松原病院を初めて受診した患者さま）、以下新患と略す）の数は714名で、それを各疾患別（スペクトラム）に

分けて図示したのが図3です。人口の高齢化に伴い、アルツハイマー型認知症や血管性認知症などの認知症圏の新患が一番多く（159人、22・3%）、次いで、躁うつ病（140人、19・6%）、適応障害（73人、10・2%）、統合失調症（50人、7・0%）、アルコールなどの物質依存（45人、6・3%）、睡眠障害（41人、5・7%）などとなっています。この松原病院の疾病別割合は上述のわが国の疾病別割合とかなり相似しています。これらの新規患者さまに対する治療として、入院治療を要する患者さまには精神保健福祉法による任意入院、医療保護入院などの入院形態をとっていただいております。外来治療においては、統合失調症には副作用の少な

い非定型抗精神病薬（第二世代抗精神病薬）を使用し、うつ病には第三世代の抗うつ薬（SSRI）第四世代の抗うつ薬（SNRI）を投与しております。これらの最新の薬物療法とともに、支持的精神療法を主とした通院精神療法、カウンセリング、認知行動療法、自律訓練法、対人関係療法、家族療法などの精神療法も行っております。また、睡眠障害に対しては、睡眠薬の投与とともに、高照度光療法、経鼻的持続陽圧呼吸療法も行っております。

このように松原病院では人にやさしく、地域に信頼される、高度かつ最新の精神科医療を提供するよう日々心がけております。

### 目次

vol.2  
2006.6月

### 特集

## わが国の精神疾患の最近の動向

特に松原病院の新規患者の動向

医療法人財団 松原愛育会  
松原病院 院長 山口成良  
..... 2-3

## 精神科治療と地域生活支援の統合を目指す

松原病院 理事長 松原三郎  
..... 4-5

## 障害者自立支援法 NEWS

..... 4-5

## 介護保険制度改正

お年寄り地域福祉支援センター  
『とびうめ』が誕生しました  
..... 6

## 地域連携室 NEWS

..... 7

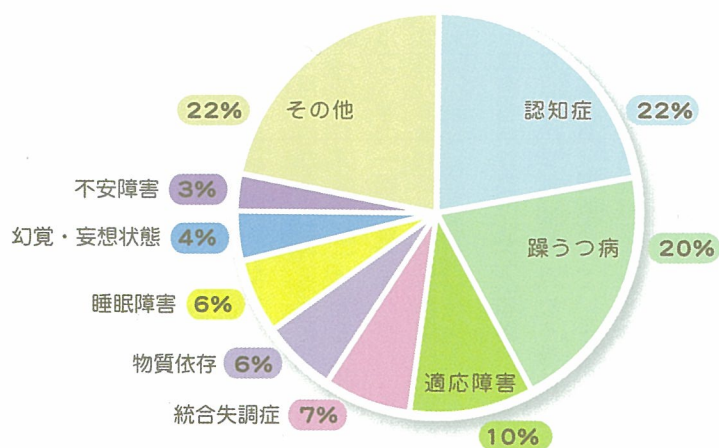


図3 松原病院外来新患疾病別割合  
(平成17年3月～平成18年2月)

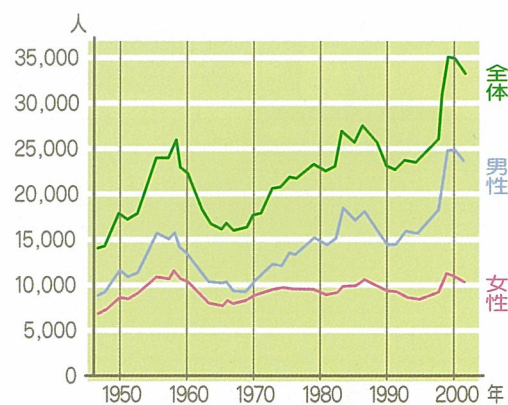


図2 自殺者総数の年次推移

資料：高橋祥友著  
『医療者が知っておきたい自殺のリスクマネジメント』

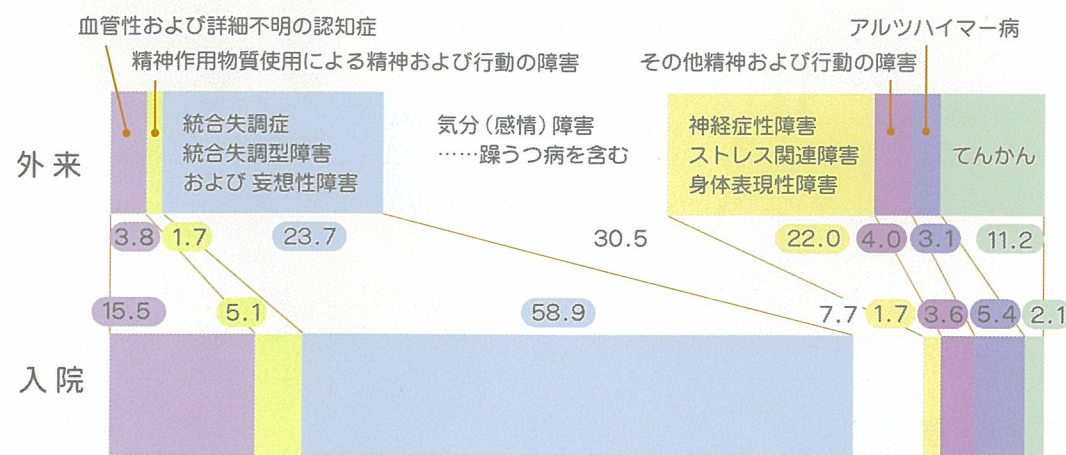


図1 入院・外来別受療者の疾病別割合

資料 我が国の精神保健福祉（平成16年度版）